

## 筑波山神社

イザナギ命イザナミ命の男女の神を祀る。延喜式の神名帳に名神大社に列し古来の名高い社である。桓武天皇の延暦元年徳一上人という高僧ここに錫をとどめ両部習合の神社（神仏混濁）とし筑波大権現と称し山腹に千手観音を安置して知足院中禪寺（坂東二十五番の札所）と号した。八田知家（小田城をほじめてぎざいた人）の八男筑波八郎僧となり明玄と号してこの中禪寺の別当となり筑波城主を兼ねた。（今の東山に城趾がある）以後子孫相ついで中禪寺の別当となり戦国時代に及んだ。徳川家康江戸幕府を開くにあたり江戸城の鬼門にあたるとして筑波山神社を崇拝して五百石の朱印を賜い祈願所とした社僧有俊を以て中興の初祖とす。第二世光善は徳川家の従軍僧として関ヶ原戦大坂の役に従いガマの油の膏薬を發明した。三代將軍家光は特に筑波山神社を崇敬し山上両本殿を建築し更に本堂、五重塔、鐘樓、樓門、御幸橋（現存）を造営し

造営し今日の筑波山神社となった。現在中禪寺は復興して神社の傍にある。

もと筑波への参道は山口から六所神社への道がいちばん古く徳川時代には北条から神部をへて六町通りが表参道で遊郭なども発達した。筑波鉄道ができてからは更につくば駅から登山自動車道が開け今日では凡てこの道をとつている。従つて古米三たび変わったわけである。

## 4 山階宮觀測所（筑波山測候所）

男体山頂にある。明治三十四年故山階宮殿下創立の我国に於ける唯一の山岳常設觀測所である。

## 5 妹脊ヶ原

夫女ヶ原ともいわれ神社の拜殿から東南に約一料程の山麓にある。名高い筑波の囃歌会の祭の行われた旧蹟である。囃歌会は歌垣ともいう上代に於ける男女自由交際の場である。神に酒食歌舞を捧げ喜びを共にする祭りである。

## 6 筑波山事件（天狗党の乱）

水戸藩には従来から幕命に順従することを主張する鎮派（諸生派）（結城寅寿ら）と之に反する敵派（天狗党）（藤田東湖ら）に分れて争つていたが安政戊午の密勅が水戸家に降るに及んで幕府は之が返上を命じ

輪奐の美を極めた。五代將軍綱吉に信賴されて大公方の悪名をとらせた隆光もこの中禪寺の僧で（綱吉は隆光の建言で生類憐れ命を出した）神領このとき千石を加え合計千五百石となり社運隆々たるものがあった。明治元年神仏分離令が出たため中禪寺を破却して神殿を